



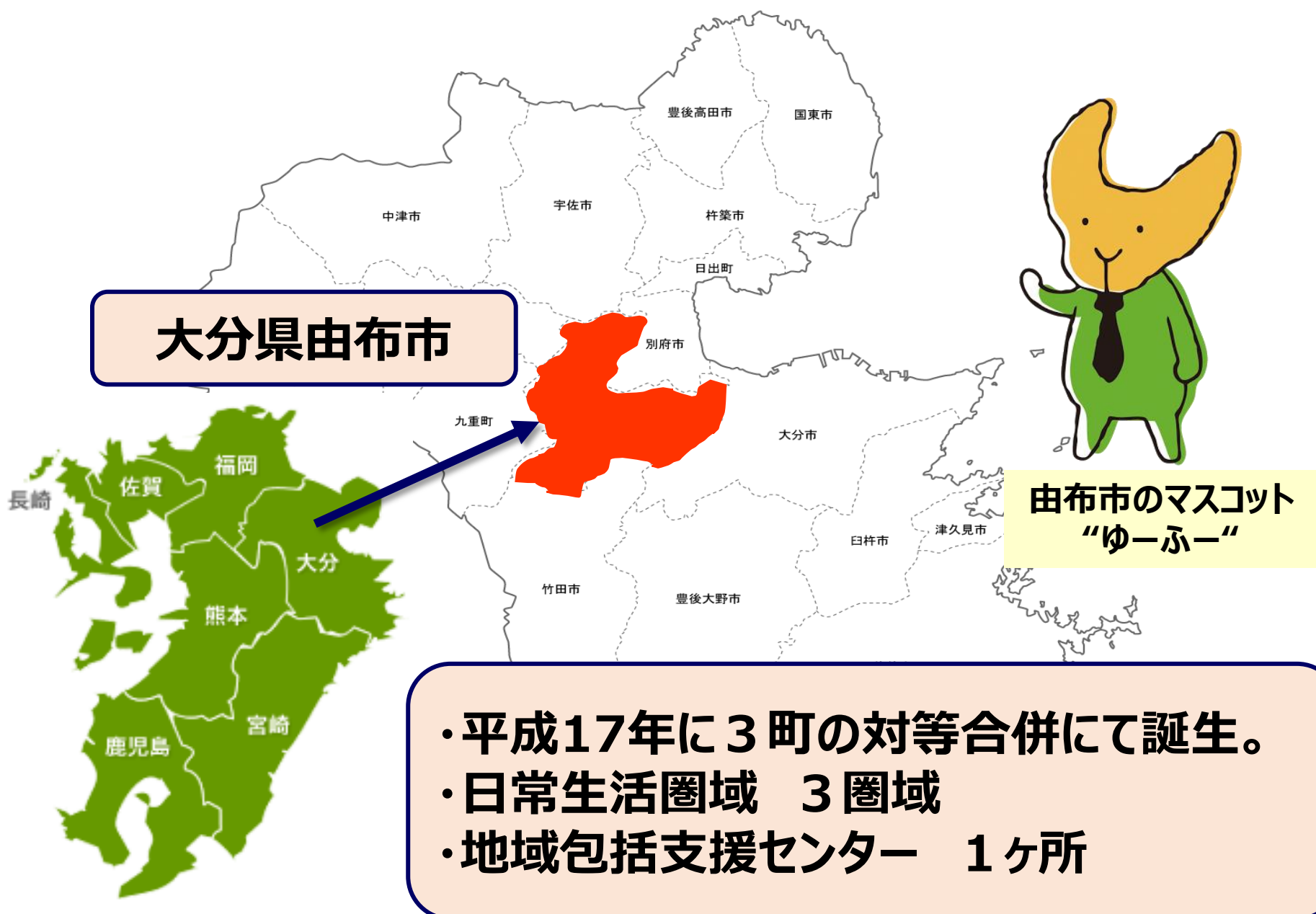
認知症の人を 地域で支えていく 体制の構築



由布市社会福祉協議会
太田 加奈子

由布市の概況① – 由布市の位置

姫島村

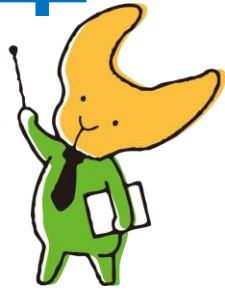


大分県由布市

由布市のマスコット
“ゆーふー”

- ・平成17年に3町の対等合併にて誕生。
- ・日常生活圏域 3圏域
- ・地域包括支援センター 1ヶ所

由布市の概況② – 人口構成と高齢化率



大分大学医学部

湯布院町 33.3%



観光地 由布院

挾間町 26.7%

由布市の年齢別人口

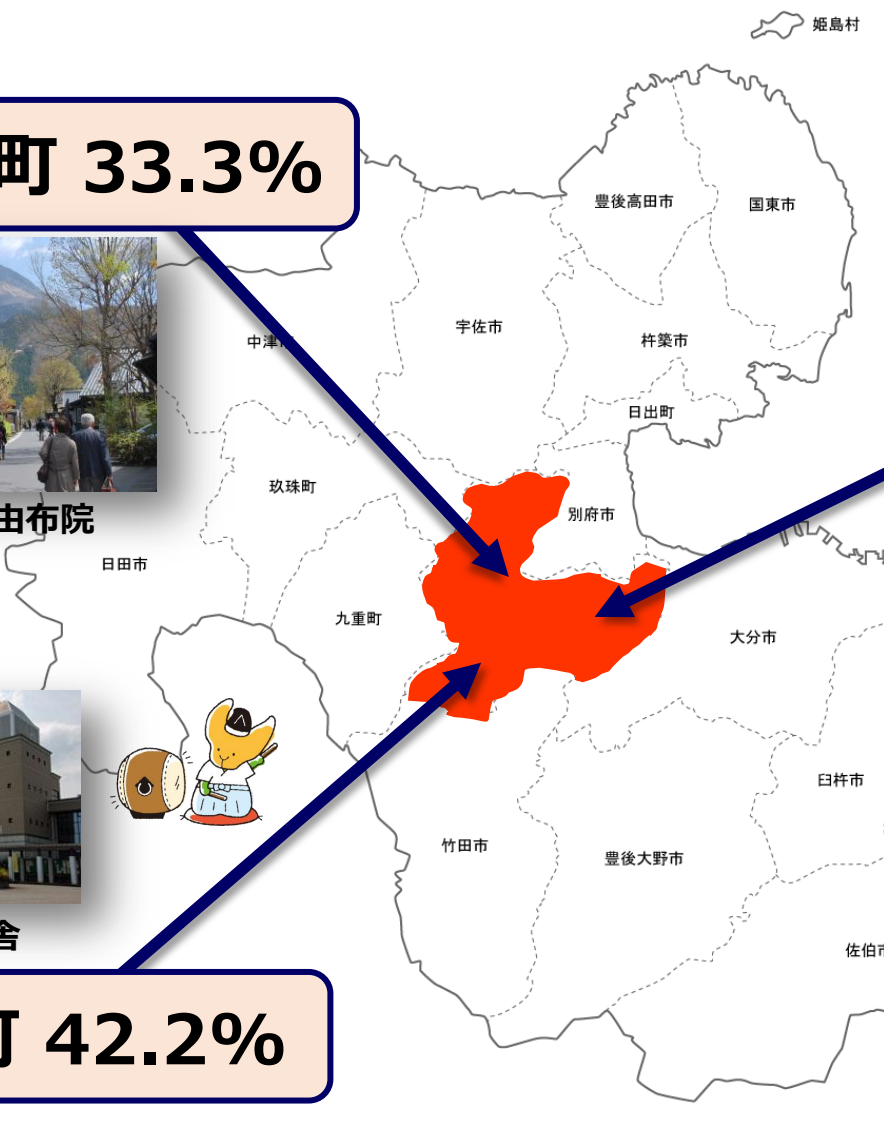
総人口	34,931人
0～14歳	4,367人
15～64歳	19,309人
65歳以上	11,255人

平成29年4月末現在

庄内町 42.2%



庄内庁舎



由布市の認知症施策の全体像

認知症の人とその家族が住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることができる。



1) 標準的な認知症ケアパスの作成・普及

- ① 由布市認知症あんしんガイド（地域ケアパス）
- ② 今の私を伝えるあんしんノート（個人ケアパス）

3) 地域での生活を支える医療・介護サービスの構築

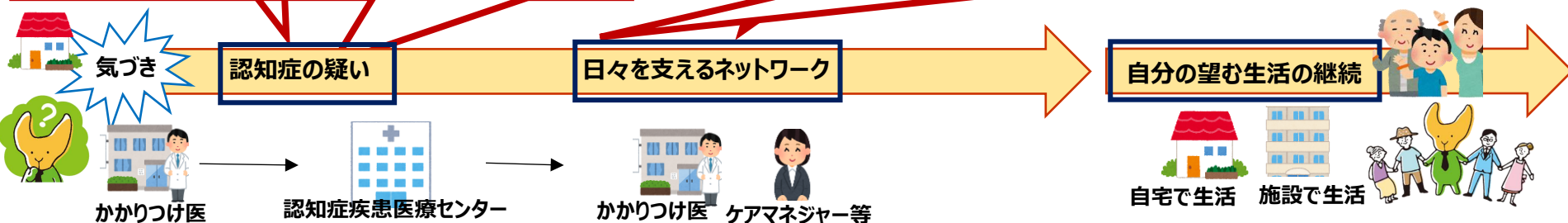
- ① 由布物忘れネットワーク（かかりつけ医を中心とした多職種連携ネットワーク構築）
- ② 由布オレンジネットワーク推進会議（在宅医療連携事業と協働）

2) 早期診断・早期対応

- ① 大分オレンジドクターのフォローアップ研修
- ② 認知症初期集中支援チーム活動
- ③ 認知症疾患医療センターとの連携

4) 若年性認知症の人と家族への支援

- ① オレンジカフェ由布（認知症サポート医が開催）との連携
- ② 若年性認知症コーディネーター（大分県）との連携



5) 地域での日常生活・家族の支援の強化

地域全体で関心を高め、支える

- ① 認知症サポーターキャラバンの継続実施
○ 教育委員会を通して、小中学校での実施
○ 大分オレンジカンパニーの推進
- ② 由布RUN伴の開催支援
○ 認知症の人でもそうでない人も子供から大人まで参加し、タスキをつなぐ。

当事者・家族を支える

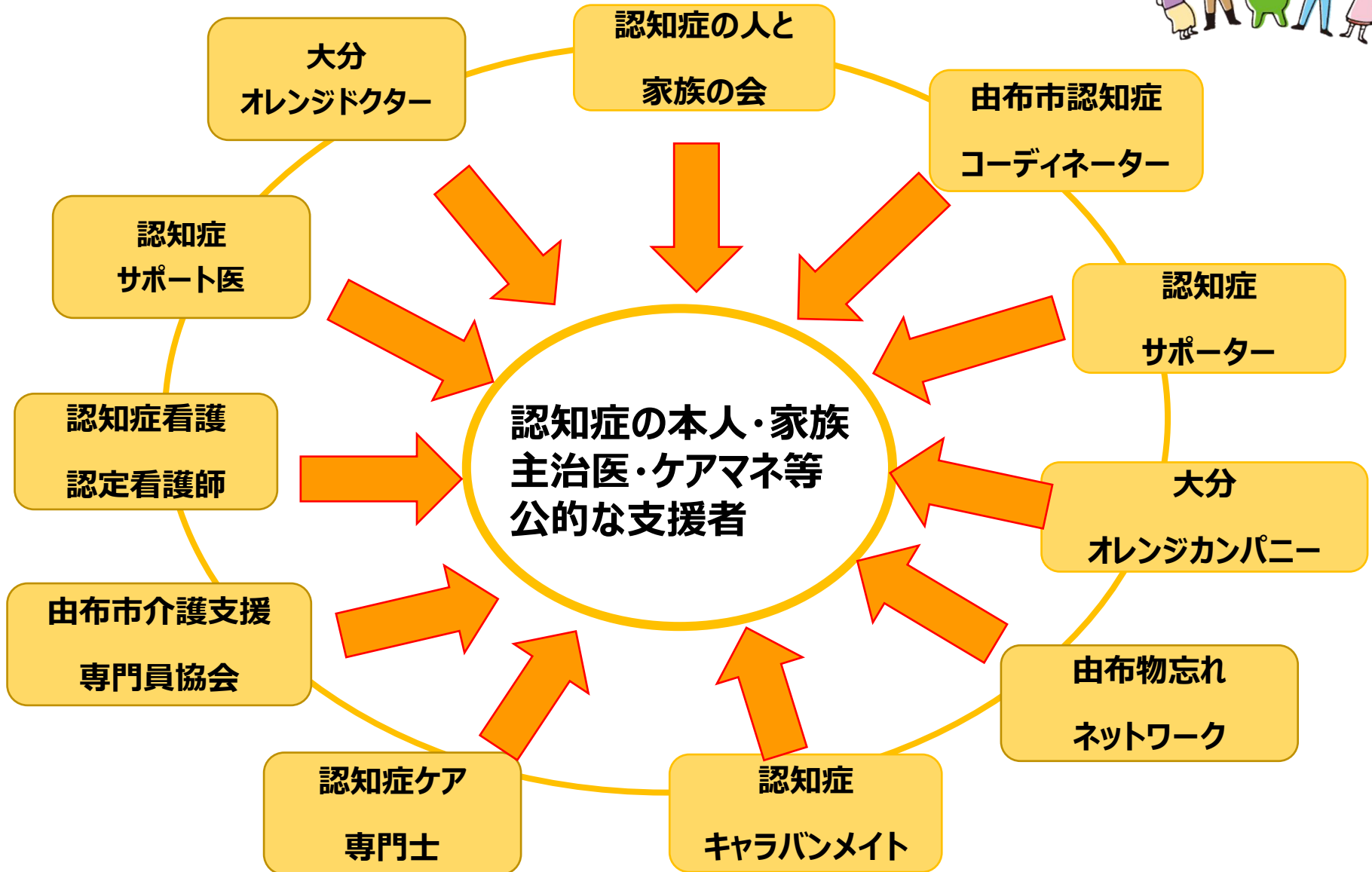
- ① 由布市あんしんネット
高齢者等SOSネットワーク事業
- ② 地域で見守り声かけ訓練
全世代参加型の訓練を年に1回開催
- ③ オレンジカフェの開催支援
市内3ヶ所で地域特性を活かし開催
- ④ 認知症の人と家族の会との連携
つどいへの参加、啓発活動
- ⑤ 成年後見制度
市長申し立ての支援

専門職資源のネットワーク

- ① 由布市認知症コーディネーター養成
市独自でH25～H27年度養成し、32名が登録
- ② 由布オレンジの会
（認知症地域活動支援ボランティア事業）
地域活動を行なう意欲のある人を登録し、
由布市の地域活動に派遣し、活性化を図る。

認知症の人を地域で支えていくための支援体制

由布市内で地域活動を行ってくれる人材が年々増加。
当事者を支える地域活動も活性化。



地域の体制① 由布物忘れネットワーク (多職種連携の基盤づくり)



由布物忘れネットワークの活動組織

○平成22年に発足し、35回の研修会を実施

※地域の仲間と一緒に同じ場で同じ内容を学ぶことで共有できる

○かかりつけ医と大学病院医師が一緒になって、顔のみえる関係づくり

○民間主体で医師等からの寄付によって運営



由布物忘れネットワーク世話人会



医師、大学教員、由布市行政、中部保健所長、地域包括支援センター、老施協会長、認知症看護認定看護師、医療職、介護職、認知症地域支援推進員など15名程度で構成

【これまでの主な活動内容】

- ① 由布物忘れネットワーク研修会の企画・調整
- ② 当事者が主体的に参加できる事業の企画
- ③ 地域で見守り声かけ訓練の企画・運営
- ④ 当事者の声を届ける事業の企画



アイデア満載、笑い満載の会議

地域の体制②タイムリーな多機関連携 (地域の専門職による事例検討)



前頭側頭型認知症の70代、男性 Sさんの事例を通して...

本人の思い 『(元々運動が好きな人で) 歩きたい!』

妻の思い 『できる限り本人の好きなように生活させたい。』

携帯のGPSで本人の位置情報を検索し、電話をかけて迎えに行くことを繰り返す。

警察の思い 『保護が続いているので心配。』

行政・介護支援専門員協会・社会福祉協議会の三者で研修会を開催

今まで、Sさんを見かけたことのある人に『どこで』『何時頃』歩いていたかの情報を共有し、行動範囲のパターンを検討。訪問や送迎等で外出する際に、みんなで見守っていこうと確認しました。



専門職の一員として、地域に暮らす一員として、Sさんの散歩を見守る

→認知症が他人事ではなく、自分が暮らす街の課題として考える

地域の体制③ゆるやかで重層的な連携 (地域の住民による見守り体制)



前頭側頭型認知症の60代、男性 Oさんの事例を通して・・・

運転免許の返納の際には

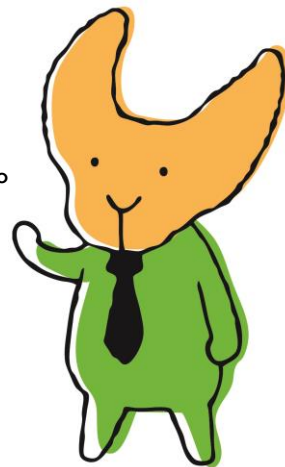
仕事仲間が

Oさんの車、珍しいけん買い取らせてもらうわ。
以前はベンツに乗っちゃったけんなあ。
ベンツよりいい車はもうないけん、免許返したって。
そういうことにしよう！

ストーカー被害がだされ・・・

かかりつけ医が

傷つき悩む女性の気持ちはないがしろにできないけど、
Oさんなりの優しさが何度も声をかける行動になってる
だけじゃないかなあ。
警察も含め、みんなで見守る方向を考えよう！



お金を払わないときには・・・

店長さんが

いつも同じものなんよなあ・・・。
他の商品はお金払うけんなあ？
声をかけれるように、その商品をレジ横に置く
ようにしたよ。

通所の利用が定着できず・・・

友人たちが

何かいいところに行きだしたんやろ？
ご飯も美味しいらしいし、いいなあ。
Oさん、昔から先頭だっていろいろしては
俺らに教えてくれちゃったもんなあ。

病気や病状ではなく、Oさんの生活歴や性格から、地域で過ごすための方策を考える。

→認知症は隠すことなく、多くの人との関わりの中で生活として成り立つ。

地域の体制④ 由布RUN伴+ (共生の街づくり)



市内52kmを8時間かけてタスキをつなぐ。医師会、自治会、老人クラブ、家族の会・・・
市長も医師も認知症の人も、みんな由布市で暮らす仲間であることを実感。

当事者は**勇気**を、専門職は**連携のきっかけ**を、地域は**認知症を知るきっかけ**に

決起集会にて想いを
1つに



想いを込めて
バルーンリリース



認知症の人もそうでない人もみんなが
参加者であり、応援者！

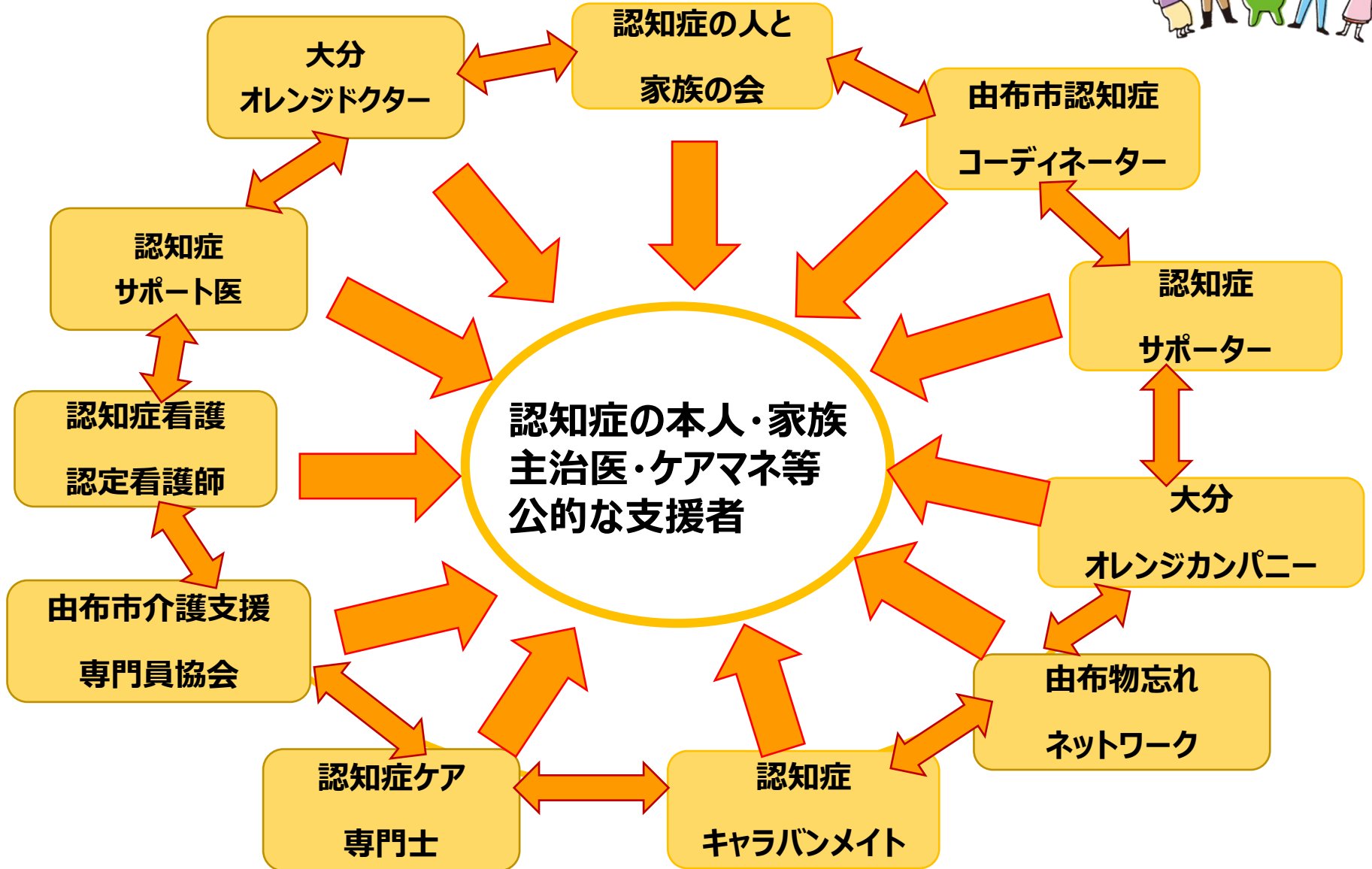


**認知症の人と家族を支える体制や啓
発のための事業は確かに
広がっている。
でも、その横のつながりは？**



認知症の人を地域で支えていく人同士の連携

お互いの活動をもっと知ること、地域活動はもっと活性化してくのでは？



由布市オレンジの会の発足①

そもそも由布市では・・・

【認知症施策の方針】

認知症の人とその家族が住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることができる。

《平成27年度目標》

認知症の人を支える輪を広げる

《平成28年度目標》

認知症の人を支える関係者・関係機関の連携強化

《平成29年度目標》

自発的な取り組みができるような人・機関が増える。

推進員が課題と感じていたこと

○独自に認知症コーディネーターを養成し、自主的な活動を行なえるようにフォローアップ研修を行ってきたが、組織化については消極的な意見が多く、活動が広がらない。

また認知症コーディネーターのモチベーションの幅が大きく、今後の方針がまとまらない。

○認知症サポーター養成講座の依頼が多くなってきたが、キャラバンメイトのみでは不安と言われる。一方で・・・

○「地域活動をもっとしたい」「認知症サポーター養成講座に小学校に行くと聞いたけど、声をかけてもらえなかった」という積極的な意見も多い。



地域活動の需要と供給の調整が必要！



由布市オレンジの会の発足②

認知症地域活動活性化のための仕組み



認知症地域支援・ケア向上事業
実施主体：由布市福祉課



委託

由布市オレンジの会

運営主体：由布市社会福祉協議会（認知症地域支援推進員）

- ・オレンジの会の会員登録
- ・活動先との調整
- ・報告会及び研修会の実施（年1回）

認知症に関わる地域活動として申請
（介護保険事業所・各種団体等）



オレンジカフェスタッフ



由布RUN伴+



由布市オレンジの会
（由布市社会福祉協議会内）

声かけ訓練スタッフ



研修会準備スタッフ等



サポーター養成講座



啓発活動へ派遣



活動時間数に応じてポイントを付与し、たまったポイントを由布市内で使える商品券に交換できます
1 P・・・概ね30分以上 3 時間未満、2 P・・・概ね 3 時間以上6 時間未満



由布市オレンジの会の発足③

由布市オレンジの会のご案内

由布市オレンジの会は、由布市を目指す【認知症の人と家族にやさしい街づくり】を一緒にお手伝いしてくれる人を登録し、活動支援や調整を行なうための組織です。



由布市オレンジの会に登録できる人

- 由布市認知症コーディネーターとして由布市に登録されている人
- キャラバンメイトとして由布市に登録されている人
- 認知症介護実践リーダー研修を受講し、由布市内に従事している人
- 認知症ケア専門士として、由布市内に従事している人
- 認知症看護認定看護師として、由布市内に従事している人

上記に該当する人で、概ね年に2回程度の地域活動が行える人

【活動内容】

- ①地域で認知症の啓発を行なう際のスタッフ
- ②認知症サポーター養成講座を行う際のスタッフ
- ③由布市で開催される認知症関連事業のスタッフ
- ④オレンジカフェ開催スタッフ
- ⑤研修会開催時のスタッフ

など、由布市の認知症関連地域活動において、依頼に応じて、登録者に活動をしていただきます。

活動ポイントの付与

活動時間数に応じてポイントを付与し、たまったポイントは由布市内で使える商品券と交換します。

- 1P・・・概ね30分以上3時間未満
- 2P・・・概ね3時間以上6時間未満

実施主体：由布市

運営主体：由布市社会福祉協議会（担当：認知症地域支援推進員 太田）

登録は無料ですが、ボランティア保険の加入をお願いしております。

発足で期待されること

- ①地域活動の需要を把握し、会員みんなに呼びかけることで、供給体制を整える。
- ②事業として展開することで、地域活動を行なう人や機関が活動が行いやすくなる。
- ③会としての報告会をもうけ、自分が参加していない地域活動を共有することができる。
- ④活動ポイントとしてたまっていくことで、自身の地域活動の足跡として感じてもらえる。

そして何より・・・

認知症の地域活動を行なっているフォーマルな専門職が、インフォーマルな資源として地域活動を行なうことで地域活動が活性化するのは！

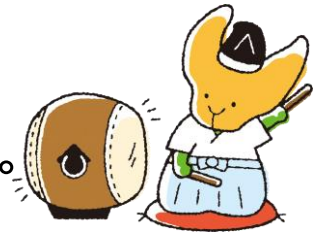
いつもの仲間から一歩すすんで、新たに活動できる仲間が増えるかも！



**地域で暮らす人達にとって、
私たちのインフォーマルな肩書は関係ない。
1人の仲間として支え、支えられたい。**

由布市オレンジの会の発足④

市内で働く人たちが会員として55名が入会し、地域活動を行う。
OBも医師も教授も、みんな横並びでの地域活動。



20代～70代まで
幅広い世代が入会



これだけ多くの人が、1人の個人として、認知症の人と家族を支えたいと思っている・・・

由布市の宝

認知症地域支援推進員は

【実施する人】ではなく

【実施体制を整える人】

自分で行なうのは最終手段！
いかにみんなが活躍できるか、
関わっていけるかをサポートすることが
大切なんだと感じています。



誰かがすごく頑張る由布市ではなく、 みんなができる範囲で、 できることをする由布市

を目指しています。

その時その時、できる人ができる範囲で助け合って、
無理せずに・・・

足して100になればよい・・・

ご清聴
ありがとうございました。

